

1) 目的

競技規則の目的は、標準的な規則を適用することにより、世界テコンドー連盟（以下、WT）、地域別連合及び加盟国内競技団体が奨励、主催する全てのレベルの競技に関連するあらゆる事柄を公正かつ円滑に管理することができる。

2) 適用

競技規則は、WT、地域別連合及び加盟国内競技団体が主催、承認する全ての競技に適用される。

但し、競技規則の一部の変更を希望する加盟国内競技団体は、WTの承認を得なければいけない。

また、事前の承認がない、規則違反をしている大会について連盟は承認を拒否する。或いは剥奪することができ、その大陸連盟や加盟各国その大陸連盟や加盟各国協会に懲戒処分を課することができる。

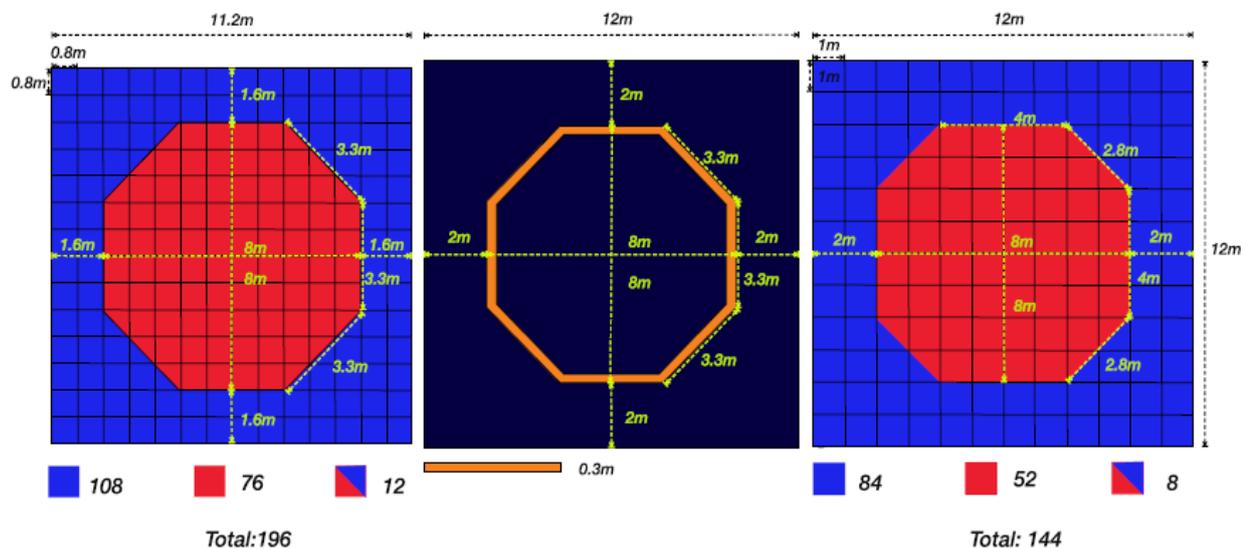
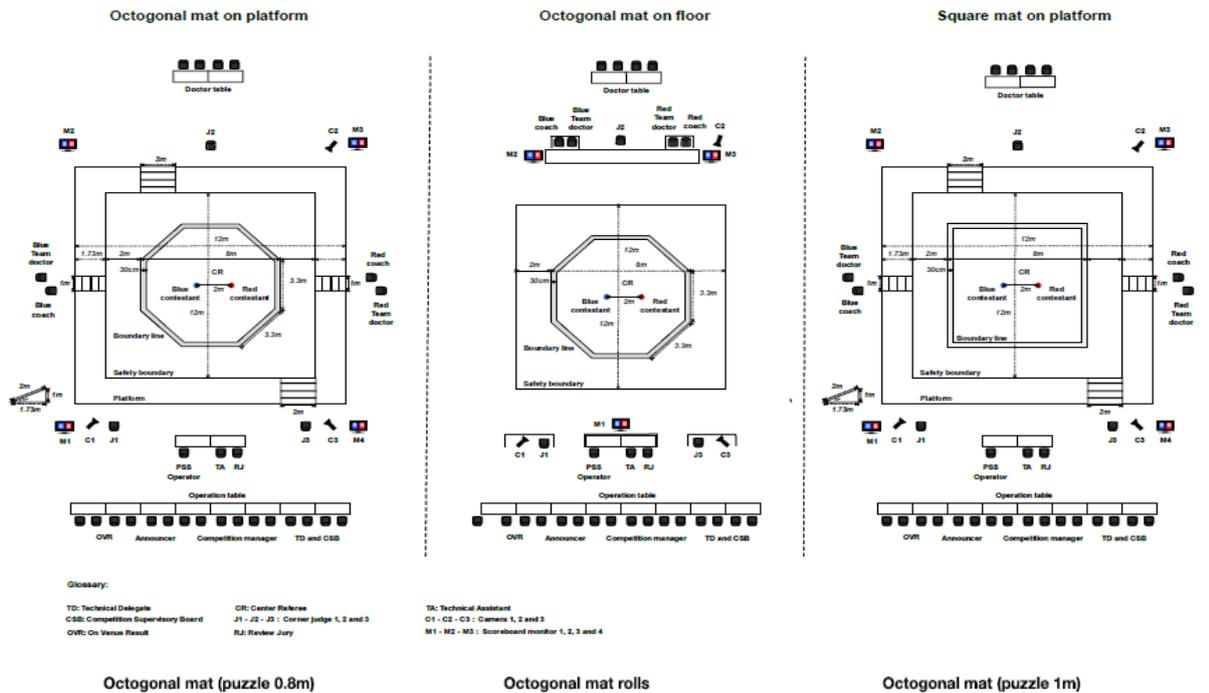
WTと各大陸連盟、各国協会が主催及び主管または承認する全ての大会において、WTの定款と賞罰規定とアンチ・ドーピング規定と関連規定が適用される。

3) 競技エリア

競技エリアは、障害のない平らな場所で行われる。弾力性があり滑らないマットを使用する。

必要に応じて床から角度30°で0.6~1mの高さに競技エリアを上げることができる。

- 【四角形】 競技エリアは、8m×8mとし、安全エリアは競技エリアを含め10m×10m~12m×12m以内となる。
 - 【八角形】 競技エリアは、各辺の長さが3.3mの八角形とし、安全エリアは競技エリアを含め10m×10m~12m×12m以内となる。
- ※共通することは、競技エリアと安全エリアは異なる色を使用する。（色は各大会競技規則に従う）



4) 競技者

シニア大会の参加資格は17歳以上となっており、**国際大会へは、国技院またはWTの段/品とWTグローバルスリートライセンス（GAL）が必要となる。**（但し、ジュニア大会は15～17歳、カデット大会は12～14歳が参加基準となる。）

5) 競技用具

大会では、マット・電子防具・ビデオシステム・保護具等の競技用品は、必ずWT公認用品でなければならない。

【競技用品】 道着、ファールカップ、ガード（グローイン・アーム・シン）、ハンドグローブ、センシングソックス、胴プロテクター、ヘッドギア
【競技用品 規定】

- ①マウスピース : **白または透明** 医師の診断書がある場合、マウスピース使用は免除。
- ②ヘッドプロテクター : **青or赤** 白はじめ他色は使用不可になる。**（カデット大会は、フェイスガード着用が必要。）**
許可を得た宗教品は、傷つけたり、邪魔でない限り、ヘッドプロテクターや道着の下に着用。
- ③ビデオ判定機 : **放送中継用の画像をビデオ判定のために提供しなければいけない。**
G-12以上の大会では、4Dカメラ搭載でのビデオ判定機を使う。
- ④テーピング : 手と足のテーピングも過度の場合は、医療委員会の医師の承認が必要。

WT主催大会は、次の内容を組織委員会の費用で準備する。

電子防具関連用品、マット、電光掲示板（最低4台）、ビデオ判定機（**最低3台 準決勝以降：最低4台 G-12以上は4Dカメラ**）
大スクリーン（**試合順番、選手プロフィール他**）、審判待機席、選手呼出及びウォーミングアップエリア、TVスクリーン

WT主催は、ウォーミングアップエリアに以下の内容を設置しなければいけない。

電子防具関連用品、マット、**ランニング機器、バイク機器**、医療機器、氷、冷蔵庫、水ボトル

6) 競技時間

2分×3ラウンド（インターバル：1分） ※3ラウンド終了時、同点の場合ゴールデンポイントラウンドを1分間の第4ラウンドを実施。
技術代表の決定に基づいて、1分×3ラウンド、1分30秒×3ラウンド、2分×2ラウンドと調整ができる。

7) 階級

■通常階級

男子		女子	
-54kg	54.0kg以下	-46kg	46.0kg以下
-58kg	54.1kg～58.0kg	-49kg	46.1kg～49.0kg
-63kg	58.1kg～63.0kg	-53kg	49.1kg～53.0kg
-68kg	63.1kg～68.0kg	-57kg	53.1kg～57.0kg
-74kg	68.1kg～74.0kg	-62kg	57.1kg～62.0kg
-80kg	74.1kg～80.0kg	-67kg	62.1kg～67.0kg
-87kg	80.1kg～87.0kg	-73kg	67.1kg～73.0kg
+87kg	87.1kg以上	+73kg	73.1kg以上

■オリンピック階級

男子		女子	
-58kg	58.0kg以下	-49kg	49.0kg以下
-68kg	58.1kg～68.0kg	-57kg	49.1kg～57.0kg
-80kg	68.1kg～80.0kg	-67kg	57.1kg～67.0kg
+80kg	80.1kg以上	+67kg	67.1kg以上

■世界カデット階級

男子		女子	
-33kg	33.0kg以下	-29kg	29.0kg以下
-37kg	33.1kg～37.0kg	-33kg	29.1kg～33.0kg
-41kg	37.1kg～41.0kg	-37kg	33.1kg～37.0kg
-45kg	41.1kg～45.0kg	-41kg	37.1kg～41.0kg
-49kg	45.1kg～49.0kg	-44kg	41.1kg～44.0kg
-53kg	49.1kg～53.0kg	-47kg	44.1kg～47.0kg
-57kg	53.1kg～57.0kg	-51kg	47.1kg～51.0kg
-61kg	57.1kg～61.0kg	-55kg	51.1kg～55.0kg
-65kg	61.1kg～65.0kg	-59kg	55.1kg～59.0kg
+65kg	65.1kg以上	+59kg	59.1kg以上

■世界ジュニア階級

男子		女子	
-45kg	45.0kg以下	-42kg	42.0kg以下
-48kg	45.1kg～48.0kg	-44kg	42.1kg～44.0kg
-51kg	48.1kg～51.0kg	-46kg	44.1kg～46.0kg
-55kg	51.1kg～55.0kg	-49kg	46.1kg～49.0kg
-59kg	55.1kg～59.0kg	-52kg	49.1kg～52.0kg
-63kg	59.1kg～63.0kg	-55kg	52.1kg～55.0kg
-68kg	63.1kg～68.0kg	-59kg	55.1kg～59.0kg
-73kg	68.1kg～73.0kg	-63kg	59.1kg～63.0kg
-78kg	73.1kg～78.0kg	-68kg	63.1kg～68.0kg
+78kg	78.1kg以上	+68kg	68.1kg以上

■ユースオリンピック階級

男子		女子	
-48kg	48.0kg以下	-44kg	44.0kg以下
-55kg	48.1kg～55.0kg	-49kg	44.1kg～49.0kg
-63kg	55.1kg～63.0kg	-55kg	49.1kg～55.0kg
-73kg	63.1kg～73.0kg	-63kg	55.1kg～63.0kg
+73kg	73.1kg以上	+63kg	63.1kg以上

-kg以下の意味は、適用単位は小数点第1位までを基準とする。

8) 計量

競技者は、当該競技日の前日に計量を行わなければいけない。計量時間は2時間と設定されており、規定体重をクリアできない場合、規定時間までに1回のみ再計量が認められている。

競技日当日に競技者は、朝会場にて無作為計量を行う。（当該階級の選手の33%が無作為計量の対象）
無作為計量は試合開始の2時間前に行われ、競技者は、対象試合の30分前までに計量をクリアしなければいけない。
無作為計量は、各階級の体重+5%以内に抑えなければいけない。（例：-58kgの場合 58kg×5% = 60.9kg）

体重測定の際、男子はアンダーパンツ、女子はアンダーパンツとブラジャーを着用。（但し、競技者は、裸で測定を希望することができる。）
→ジュニア及びカデットの場合、アンダーウェア（100g）を着用して計量ができる。

体重測定は、男女別の会場を設置。体重測定は、男子が男性役員、女子が女性役員が立ち会う。
体重測定で失格とならないよう、公式体重計と同じ体重計を宿泊施設または競技会場に設置。事前に体重測定ができるようにする。

8) 競技手順

競技者は、試合時間30分前から3回呼出される。3回呼出後に競技者が確認できない場合は失格。

呼出された競技者は、検査員によって身体検査とユニフォーム及び着用防具の検査を受ける。

競技コートへは、競技者とコーチ1名、必要であればチームドクター1名が入場できる。

9) 得点部位

【許容技術】

拳技、足技

【得点部位】

胴 : 胴プロテクターへ拳技及び足技による攻撃が認められた場合。(鎖骨への攻撃をしてはならない。)

頭部 : ヘッドギアで覆われた部分及び顔を足技による攻撃のみ認められた場合。

【有効得点】

1) 有効得点箇所

胴 : 胴プロテクターの青または赤色の部分

頭部 : ヘッドギアの下部から上部、頭部全体。

2) 有効得点

1点 : 胴プロテクターへ拳での攻撃。**(ストレートパンチが基本となる。相手へは「インパクト」を重視。)**

2点 : 胴プロテクターへ足での攻撃。

4点 : 胴プロテクターへ回転蹴り技。

3点 : 頭部への有効な蹴り技。

5点 : 頭部への有効な回転蹴り技

相手選手がカムチョン(減点)を受けた場合、1点を得られる。

【電子防具】

電子プロテクター(PSS)を使用する場合、PSSによって判定。電子採点装置による得点について、ビデオプレイは要求できない。電子防具の適正な強度と感度は、WT技術委員会にて決定される。

10) 得点の発表

【得点】

・電子プロテクター(PSS)の場合

電子プロテクター(PSS)によって加点される。また、拳の得点と有効な回転蹴りの加点のみ副審が加点をする。
→回転蹴りの加点は、電子採点装置によって有効と判断された場合のみ加点ができる。

・一般プロテクターの場合

全ての採点を副審の手動採点機で行う。

・有効ポイント

3審制 : 2名以上副審が有効ポイントを認めた場合、加点。

2審制 : 2名の副審が有効ポイントを認めた場合、加点。

・ノックダウンによる有効性

頭部へ強度な攻撃の場合、ノックダウンとみなし、カウントを開始したが、電子採点装置が採点されない場合、主審は、カウント終了後、得点の有効性を確認するため、ビデオレビューを要求することができる。

また、胴部への攻撃(拳・蹴り技)でも同様の手順となる。

【得点無効】

・攻撃者が、反則行為を利用して得点を獲得したときは、得点は無効となる。

主審は、攻撃者へペナルティーを宣言。その後、加点されたポイントを無効にする。

攻撃者が反則行為をしても、得点に影響がない場合、反則のみを宣言。

禁止行為がポイントを獲得するためでない場合は、主審は、ペナルティーのみ宣言。

11) 禁止行為(ペナルティー)

ペナルティーは、審判によって宣言される。

禁止行為及びペナルティは主審が宣言する。禁止行為によるペナルティは、「カムチョン(減点)」とし、相手選手に1点加点される。

【ペナルティー内容】

・境界線を越える

・倒れる

・競技進行を回避または遅延(消極的姿勢)

・相手を掴む及び押し

・相手の攻撃3秒以上足をあげて妨害

・相手の下半身への攻撃

・相手の攻撃を膝を上げてブロックまたは、膝で相手へ攻撃。

・手で相手競技者の頭部への攻撃

・主審の呼び宣言後の攻撃

・倒れた相手への攻撃

・**クリンチ状態で相手の胴プロテクター(PSS)へ足での攻撃。**

・競技者またはコーチによる暴言・不品行

・審判の判定に不適切な方法で抗議や批判。

・不適切な方法で競技結果に影響を与え混乱を招いた場合。

・相手競技者やコーチを侮辱・挑発。

・登録外のチームドクター他関係者が医師指定席にいた場合。

・スポーツ精神に外れる好ましくない行為。

※主審は、コーチ・選手が指示に従わない場合、イエローカードを上げることによって制裁要求を宣言する。

競技監督委員会は、コーチ言行動を調査。制裁が適切であるかを決定する。

※主審は、3ラウンド以内に10カムチョンした選手を敗者にする。

※競技者が意図的に繰り返し競技規則や審判の命令に従わないまたは拒否した場合、主審は、試合を中断させ、その競技者を反則負けすることができる。また、競技者が、3ラウンドの総計で10回カムチョンを受けた場合も反則負けすることができる。

※電子採点装置(PSS)の場合、検査デスクや競技内で選手やコーチがPSSを操作して、電子機能に影響を与えた場合は、その選手を失格にさせなければいけない。影響有無は、PSS技術者の助言を参考とする。

【カムチョンの詳細】

境界線を越える

片足が境界線を越える場合。（但し、相手の禁止行為によって境界線を越えた場合は、対象外）

倒れる

両足以外が地面に触れる。**（ノックダウン：8カウントでファイトできる場合も倒れているためカムチョンとなる。）**

相手の反則によって倒れた場合は、カムチョンの対象外。（反則した相手にカムチョンを与える。）

競技者同士の体がぶつかり転倒した場合は、カムチョン対象外。

競技進行を回避したり、遅延させる（消極的姿勢）

競技者が攻撃の意思なく試合を回避や故意に試合を遅延させる。

両競技者のうち、より防衛的姿勢と後退する競技者。

両競技者が5秒動かない場合、主審は「Fight」の動作を行う。更に5秒後、元の場所から後ろに動く競技者へカムチョンを与える。

両競技者が動かない場合、両者へカムチョンを与える。

相手の攻撃を回避するために背を向けたり、膝を曲げて通常の戦う姿勢でない場合。**（過度に飛ぶことも同様の扱いになる。）**

相手競技者の攻撃を反則と判断させるために痛みを誇張したり、時間を故意に遅延させる。

競技者が、防具の位置を直したりなど故意に試合を中断するよう主審へ要求。

相手を掴む及び押す

相手競技者の身体及び道着・防具を掴む。または、相手競技者の脛や足を掴んだり、足を腕の上にかける。

境界線付近で相手競技者を押したり、蹴る動作中に相手競技者を押す。

相手の攻撃3秒以上足をあげて妨害

相手の攻撃を回避するために足を3秒以上上げて妨害したり、足を上げて前進する。

脛の半分を上げただけはフェイントと扱われる。但し、何度も同様の動作をするとカムチョンの対象となる。

腰より下の方向へ出す蹴り技

腰より下（太腿、脛など脚の部位）への攻撃。

但し、相手競技者が攻撃を回避したり、両競技者が技の応酬で発生した攻撃は対象外。

主審のカロ宣言後での攻撃

カロ後の攻撃は、実際に相手選手の体に打撃された場合に適用される。また、相手競技者に打撃されなくても、故意で悪質な攻撃動作は望ましくない行為同様の扱いになる。

攻撃動作がカロの前に開始された場合は、ペナルティの対象外。

手で相手競技者の頭部を攻撃

相手競技者の頭に手、腕、肘、額ほかの攻撃。相手競技者が過度に頭をさげたり、不用意な回転による不注意は対象外。

膝や額で相手を攻撃

接近戦の際、膝で相手競技者へ故意に打撃。

有効な攻撃をした際、相手競技者が接近したり、故意ではなく偶発な攻撃であった場合は、ペナルティ対象外。

倒れた相手への攻撃

倒れた競技者は、無防備な状態となり易く、重大な負傷をする可能性が高くなる。故意で否かに関係なくテコンドー精神に反する行為。

クリンチ状態で相手の胸プロテクター（PSS）へ足での攻撃。

競技者同士がクリンチになった際、クリンチしながら相手の胸プロテクターへの攻撃（例：モンキー、スコピオン、フィッシュキック）は、相手を掴んでいる見なしカムチョンになる。（頭部への攻撃は対象外）

競技者またはコーチによる暴言・不品行

競技者やコーチが、ラウンド中やインターバル中にフェアプレー精神に反する行為を行った場合は、カムチョンとなる。

主審は、インターバル中でもすぐにカムチョンを与えることができ、次のラウンド開始時に記録される。

12) ノックダウン

相手競技者の有効な加撃によって、足の裏を除く体の一部が床に触れたり、よろめき試合を続行する意思や能力を示さない場合、主審は、ノックダウンを宣言できる。**（競技者の安全を確保することが大事）**

13) ノックダウン手順

主審は「カロ」を宣言。ダウンした競技者を相手を遠ざける。競技者の状態を確認後、「ハナ」から「ヨル」まで1秒間隔でカウントする。手の動作で時間経過を競技者へ示す。**（ダウンした競技者の状態が悪い場合、「ドクター」を2度呼んでからカウントを開始する。）**

※ノックダウン時は、試合時間を止める。（試合時間が動いている場合、ビデオレビューで正確な試合時間に戻す。）

カウントの間に競技者が立ち上がり、試合続行を希望した場合は、競技者の安全を考慮して「ヨドル」までカウントをする。回復しているかを「ファイト」のポーズで確認。問題ないと判断した場合、「ケイソク」の宣言で試合続行する。

「ヨドル」までに試合再開の意思がない場合、主審は、レフリーストップコンテスト（RSC）により相手競技者に勝利宣言を行う。

カウントは、ラウンド終了または試合時間の経過後も続行される。

両競技者がノックダウンした場合、主審は、片方の競技者が十分に回復するまでカウントをする。「ヨル」でも両競技者が回復しない場合、ノックダウン前の得点で勝者を決定する。

一方の競技者が試合続行することが不可能と判断した場合、主審はカウントを行わない、またはカウントの途中で勝者を決定できる。

体の部位に関わらず、大ケガにより試合継続できなくなった競技者が30日以内に試合に出場する場合は、関連する国内競技団体指定の医師による診断書を提出しWT医療委員長に承認される必要がある。

■ 攻撃者の隔離

ノックアウトさせた側の競技者は、自分の競技者マークまで戻るが、相手の競技者とそのマークの上または付近で倒れている場合には、自分のコーチが座っている椅子の前の境界線のところで待機する。

■ レフリーカウント

主審は、ダウンした競技者がカウント中に立ち上がり、試合続行を希望しても、競技者を安全を第一目的にしななければいけない。

8カウントする以前に競技者が試合続行を希望した場合でも主審は、「ヨドル」までカウントを行い、試合を続行する。「ヨドル」までのカウントは必須であり、主審判断で変更はできない。

■ 試合再開の判断

主審は、カウント後に競技者が回復しているか否かを判断し、回復していれば「ケイソク」の宣言で試合を続行する。

主審は、8までのカウントする間に、競技者が試合を続行できるか否かを判断しななければいけない。8までのカウント後の競技者の状況の最終確認は手順のみのものであり、主審は試合再開までに不必要に時間を経過させてはいけない。

■判定

ノックダウンされた競技者が「ヨドル」のカウントまでに試合再開の意思を示すことができない場合、「ヨドル」までカウントした後、ノックアウト(RSC)による相手競技者の勝利を宣言する。

■試合続行の意思表示

競技者は、拳を握って戦う姿勢を何度かとることにより、試合続行の意思を示す。「ヨドル」のカウントまでにこの姿勢をとることができなかった場合、主審は「アホブ」「ヨドル」のカウント後、相手の競技者を勝者として宣言される。「ヨドル」のカウント後に試合続行の意思を示しても、有効とはみなされない。競技者が、「ヨドル」のカウントまでに試合続行の意思を示しても、競技者が試合続行が不可能と主審が判断した場合には、カウントを続け、試合終了宣言をすることができる。

■危険な状況

競技者が明らかに危険な攻撃を受け、急を要する状態で倒れている場合、主審はカウント前に応急措置を求めた上でカウント行う。

競技者の回復を確認するのに余分な時間を要してはならない。競技者の状態はカウント中に確認となる。

「ヨドル」のカウントまでに競技者が回復し、試合続行の意思を示して、問題ないと判断した際、意思による治療の要件のために試合の続行が妨げられる場合、主審は「ケイソク」を宣言後、試合再開直後「カリヨ」と「ケイシ」を宣言する。

14) 競技中断手順

一方または両方の競技者が負傷したために競技が中断した場合、主審は下記の措置を講じるが規定の手順以外の方法で試合を中断することが認められる状況においては、主審は「シガン」を宣言し、「ケイソク」を宣言で試合再開することができる。

主審は「カリヨ」の宣言で試合を中断。「ケイシ」の宣言で競技時間を停止させる。

ケイシの場合、主審は、1分を超えない範囲で大会委託医師による応急処置を許可する。大会委託医師が不在の場合は、チームドクターによる応急処置を許可する。

1分を経過しても試合続行の意思を示すことができない競技者は敗者となる。

「カムチョン」で罰せられる禁止行為で負傷した際、1分を経過しても試合再開が不可能な場合は、負傷させた競技者が敗者となる。

両方の競技者がノックダウンし、1分経過しても試合再開が不可能な場合、負傷が発生する前の得点にて勝者を決定する。

主審は、競技者の痛みが打撲によって引き起こされたと判断した場合、「カリヨ」を宣言して試合を中断。試合続行を促す「スタンドアップ」を指示する。**主審が3回の「スタンドアップ」の指示した後、競技者が試合続行しない場合、RSCによる相手選手の勝利宣言を行う。**

競技者が骨折、脱臼、捻挫、出血をしていると判断した場合は、主審は「ケイシ」を宣言し、1分間の治療を受けさせなければならない。

主審は、「スタンドアップ」を指示した後、上記のケガと判断した場合は、1分の治療を受けさせることができる。

【負傷による試合の中断】

選手が骨折、脱臼、捻挫、出血のケガをしているものと判断した場合は、主審は医療委員長または医療委員長が指名した大会委託医師のアドバイスを求めることができる。競技者が1試合で同じ内容での再負傷による競技の中断をしなければならない場合、医療委員長または、医療委員長が指名した大会委託医師が主審に「試合の中止」をアドバイスできる。この場合、主審は、相手選手を勝者として宣言することができる。

【競技者の治療中の対応】

競技者が治療を受けている間、または回復の過程において40秒経過したときから、主審は5秒間隔で大きな声で経過時間を発表しなければならない。1分経過後も、選手が、試合再開の意思を示さない場合、試合結果の宣言を行わなければならない。

【ケイシ終了後の対応】

「ケイシ」の宣言後の1分は、大会委託医師の有無に関わらず、厳密に守られてはいない。治療が必要な状況だが、委託医師がいない場合、または**追加治療が必要な場合には、主審の判断によって1分間の時間計測を中断（シガン）することができる。**

試合の再開が1分後に不可能である場合、勝敗の決定は上記記載の通り決定する。

【両競技者が試合続行不能となった場合】

どちらかの競技者が、「カムチョン」による禁止行為で試合続行不能となった場合、禁止行為をした競技者を勝者として宣言する。

「カムチョン」で罰せられる禁止行為とは関係なく試合続行不能の場合、試合が中断した時点によって勝者を定める。但し、中断が第1ラウンドの終了前に発生した場合、その試合は無効となり、組織委員会は、適用な日時を決めて再試合を行う。再試合ができない競技者は、棄権とみなされる。両競技者が「カムチョン」で罰せられる禁止行為によって試合続行不能の場合は、両者を敗者とする。

①制御不能な状況になり、試合の中断が必要になった場合、主審は試合を中断し技術代表の指示に従う。

②第2ラウンド終了以後に試合が中断された場合は、中断時点の得点によって勝敗を決定する。

③第2ラウンド終了以前で試合が中断された場合は、原則として3ラウンドによる再試合を行う。

15) ビデオ判定員（ジュリー）

資格：ビデオ判定員は経験豊富な優秀な国際審判にて構成して、審判委員長の推薦で総裁が任命する。

構成：各コートにビデオ判定員（ジュリー）1名、ビデオ判定補助員1名を置くことができる。

役割：ビデオ判定員はコーチの要請に対して、直ちにビデオを判読・検討して決定を30秒以内に主審に知らせる義務がある。

16) 審判員

資格：世界テコンドー連盟に登録された国際審判資格所持者。

主審：競技全般にわたる主導権を持つ。

競技の「シジャ」、「クマン」、「カリヨ」、「ケイソク」、「ケイシ」、「シガン」、勝敗宣言

減点宣言、退場宣言他を行う。全ての宣言は結果が確認された後宣言される。

規則に従い、独自の判定を下す権限を有する。

得点有無の決定権はない。正当な採点がされていない場合、副審1名の挙手で主審は副審を招集し、ミーティングを実施。

副審2名以上の要望に応じて結果を修正できる。（3審制：2名以上の副審が同意し、主審がこれに同意した場合）

競技結果が同点や無得点の場合、第4ラウンド終了後、優勢記録により勝敗を決定する。

副審：有効と認められれば、直ちに採点をする。また、主審が召集し、プレーに対する確認を求めた際、自身の所見を述べる。

補助審判：試合中、電光掲示板が得点・罰則・時間が正確に表示されるかを確認。どのような問題も直ぐに主審に通知する。

記録員と連携を行い、主審に試合開始と停止信号を行う。

全ての得点、罰則、ビデオ判定の結果を補助審判記録用紙に記録する。

- 構成 : 4 審制の場合 : 主審 1 名、副審 3 名
3 審制の場合 : 主審 1 名、副審 2 名
- 審判割当 : 対戦表作成後に割当を決定する。
当該選手と等しい国籍所持者は審判に割当されない。状況に応じて、審判が不足時には副審として割当は例外となる。
- 判定責任 : 審判の判定は絶対的なものであり、競技監督委員会に対して責任を負わなければならない。
- 服装 : WT が指定したユニフォームを着用しなければならない。
競技エリア内では、試合の邪魔になるものは携帯してはならない。必要に応じて携帯電話の使用を制限する場合もある。
- 記録員 : タイムアウト、中断を含む時間などを計測して得点及び減点を記録・表示する。最終 TA ペーパーに記録する。

審判員が競技規則の適用を明らかに誤った判定をしたと委員会が判断をした場合には、過ちによる結果を修正し、技術代表は、競技監督委員会との論議を通じて審判を交替あるいは懲罰を与える。

的確な攻撃に対して、判定がスコアとして認められない場合、記録係が時間・得点・罰則などエラーを犯したとき、副審が異議を提起すれば、主審は「シガン」を宣言して試合を中断させ、副審に意見を聞いて覆すことができる。

同一の内容について、コーチがビデオ判定を要求する場合、主審はまず副審との合意を通じて決定。その後もコーチとの相違がある場合は、コーチの要求を受入れてビデオ判定の機会を与える。また、主審のノックダウン判定に副審が異議がある場合、主審がカウント中ときでも、異議申し立てることができる。

17) ビデオリプレイ

審判員の判断に異議がある場合、コーチは、審判員にビデオリプレイによる即時審査を求めることができる。

相手競技者に対して、境界線を越える・倒れる・「カリヨ」の後に自競技者へ攻撃、倒れた自競技者への攻撃のペナルティを要求できる。

その他、テクニカルポイント・自競技者に対するペナルティの取消・装置の誤動作による時間の修正がリプレイの対象となる。

コーチが要求する事で、主審は競技を中断させコーチに近づき要求の理由を尋ねる。

電子防具及び電子ヘッドギアに対する、足または拳の攻撃による得点については、要求は認められない。 電子ヘッドギアが使用されていない場合については、コーチは頭部への正当な蹴り技による攻撃についてのビデオリプレイを要求することが認められる。

ビデオリプレイは、1つの動作に対してのみ行うことができ、要求前5秒以内に起こった動作に限定する。

コーチがビデオリプレイ要求のためにビデオリプレイカードを挙げた場合、どのような状況であってもビデオリプレイカードを使用したものとみなす。

主審は、ビデオ判定員に、すぐにビデオリプレイ要求する。ビデオ判定員は競技者と同じ国籍であってはならない。

ビデオ判定員は、30秒以内にビデオ判定を行い、主審に最終判定を発表する。

コーチは、1試合ごとにビデオリプレイ要求の権利を有する。しかし、選手権の規模とレベルに基づいて、技術代表は、代表者会議の際、ビデオリプレイ要求の割当数を決定することができる。要求が成立した場合のみコーチは、その権利を継続して有する事ができる。

ビデオ判定員の決定は、最終的なものであり、試合中にこれ以上の抗議や試合後の訴えは受入れられない。

青、赤の選手の錯誤や採点システムのエラーなどの明らかな異常時の場合、試合中に判定の検討や訂正を求めることができる。但し、審判員が競技エリア外もしくは競技終了後については、いかなる場合においても、判定の見直しと訂正を要求することができない。

ビデオ判定し、審判の判定が変更された場合は、競技審査委員会は、競技終了後、その試合を調査し、必要に応じて関する審判員に対して懲戒措置を取ることができる。

コーチがビデオ判定要求カードがない状況であっても第3ラウンド終了前10秒以内、またはゴールデンポイントラウンド中に副審は、得点に異議がある場合は、ビデオ判定を要請することができる。

ビデオ判定システムが設置されていない大会での抗議手順は以下の通りとなる。

主審の判断に異議がある場合、チームの公式代表者は、判定の再評価を求める申請書（抗議申請書）に抗議費用（200ドル）を添え、当該試合終了後、10分以内に競技監督委員会に提出。

再評価の審議は、当該競技者と同じ国籍の委員を除く委員によって行われる。審議の決議には過半数以上が必要となる。

競技監督委員会委員は、事実確認のため、当該試合の審判員を召集することができる。

競技監督委員会による決議は最終的なものであり、上告は認められない。

制裁手順

抗議するチームのコーチまたは団長は、当該大会競技監督委員会への口頭でのプレゼンテーションすることを許されるものとする。

回答者チームのコーチまたは団長は、完結に討論を許すことを認められるものとする。

競技監督委員会は、抗議の理由を調査した後、まず、抗議が審議対象として認められるか否かを決定する。

必要な場合、委員会は、主審または審判から意見を聞く。

必要と思われる場合、委員会は、試合に関する記録文書または視覚的な記録データを物的証拠として調査。

審議後、委員会は無記名投票を行い、過半数により決議を下す。

委員長は、審議結果を記した報告書を作成・公表する。

委員会の決定に従い、必要な処置を講じる。

試合結果の決定に関する過ち

得点の計算間違い、または競技者の誤認があった場合は、判定の訂正を行う。

規則適用の過ち

主審が協議規則の適用を明らかに間違えたと委員会が判断した場合には、過ちによる結果を修正し、主審に懲罰を与える。

事実判断の過ち

攻撃の衝撃、行為の強さ、意図、あるいは宣言または競技エリアに関する行為のタイミングなどの事実を判断する際、明らかな過ちがあったと判断した場合、判定は変わらず、過ちを犯した審判が罰せられる。

18) ゴールデンラウンド

3ラウンド終了時点で勝敗が決まらない場合、1分×1ラウンドでのゴールデンラウンドを行う。

ゴールデンラウンドでは、3ラウンド終了時点の得点・減点は使用されない。

ゴールデンラウンドでは、2点以上の得点または2回のカムチョンで勝敗を決定する。

ゴールデンラウンド終了時点で勝敗が決さない場合は、以下の手順で勝敗を決定する。

- ① **ゴールデンラウンド中のパンチによる1点**
- ② **ゴールデンラウンド中におけるPSSに反応した数が多い競技者**
- ③ **3ラウンド終了時点で多くて億点したラウンドの勝利数。**
- ④ **ゴールデンラウンド含む4ラウンド合計のカムチョンで少ない競技者**
- ⑤ **②～④で勝敗が決定されない場合、主審・副審による優勢記録で勝敗を決定する。**
優勢記録での基準は、積極的な試合運び・より多くの技能の発揮・難易度の高い技の実行・選手のマネーで判断される。

優勢記録の場合、副審は、10秒以内に勝利する競技者と副審自身の名前を優勢記録用紙に記入。主審に提出をする。優勢記録の結果が最終決定となり、主審は、優勢記録用紙をWT技術代表へ提出する。

19) 決定

レフリーストップコンテスト	Refree Stop Contest	(RSC)
得点による勝利	Win by final score	(PTF)
ポイントギャップによる勝利	Win by point gap	(PTG)
	2ラウンド終了または3ラウンド途中で20点差が開いた時点が対象。(準決勝・決勝は対象外)	
ゴールデンラウンドによる勝利	Win by golden round	(GDP)
優勢記録による勝利	Win by superiority	(SUP)
撤退による勝利	Win by withdrawal	(WDR)
	負傷などで試合ができないまたは、コーチがタオルを投げて試合を没収することが対象。	
失格による勝利	Win by disqualification	(DSQ)
	計量を失敗したり、選手待機席に呼んでも現れない場合が対象。	
審判の懲罰による勝利	Win by referee's punitive decliration	(PUN)
	10カムチョンを与えた場合が対象。	
非スポーツマンの失格による勝利	Win by disqualification for unsporotsmanlike behavior	(DGB)

18) 制裁

下記の行為がコーチ・競技者・役員または加盟国連盟によって行われた場合、WT総裁または事務総長（両者不在時は技術代表）が、審議のための臨時制裁委員会を要求できる。臨時制裁委員会は、事実確認のために関連する当事者を召喚し、真相を確認できる。正当と判断された場合、臨時制裁委員会は問題を審議し、その場で制裁処分を与える。審議結果は、競技場で公表された後、WT総裁事務総長に対し書面に報告される。

■ 競技者の懲戒該当行為

競技者が試合終了後に判定に対する不適切な行動含む、勝利者宣言など主審の試合終了手順の指示に従わない。

競技者が結果に対する不服により、ヘッドギアなど所持品を投げる。

試合終了後、競技者が競技エリアを立ち去らない。

競技中、審判が繰り返し指示をしているにも関わらず、競技者が競技エリアに戻らない。

競技中、競技者が審判の指示や決定に従わない。

電子採点装置用保護具の感度操作や改造などの不正行為。

競技中、審判や競技役員に対する攻撃的行動またはスポーツマンシップに反する行動。

■ コーチ、役員および加盟各国協会のメンバーの懲戒該当行為

競技中または競技終了後、審判の公式な判定に対して抗議など不満を主張。

審判または競技役員と抗議口論。

競技中、審判・競技役員・相手選手または観客に暴力的な行動や発言。

観客を誘発したり、誤った噂を広める。

競技者に試合終了後に競技エリアに居座り、競技進行の妨げをするような誤った指示を出す。

競技場に私物や競技場内の物品を投げたり、蹴るなどの暴力。

競技役員からの競技場及び会場を退場しようとする指示や警告に従わない。

その他の競技役員に対する重大な不祥事。

競技役員に対する買収。

懲戒の種類は、賞罰委員会が行為の重大性に依りて決定される。

選手の失格

競技会場の立ち入り警告および公開謝罪 大会参加身分証明 (Accreditation Card) 剥奪

試合結果の取消し

試合結果の取消し及びメダル等の関連事項の剥奪及び返却

選手・コーチ・加盟各国協会役員に対して、WT（大陸連盟とその加! WTランキング得点の取消し

6ヶ月の出場停止

WT主管と主催大会への当i 1年の出場停止 2年の出場停止 3年の出場停止 4年の出場停止

特定の大会出場停止

罰金

一定期間、全ての大会出場停止（4年以下）

100米ドル～5,000米ドル（各懲戒行為別）

懲罰委員会は、重大な違反行為である場合、WTの関連役員に対する長期資格停止または永久資格停止と追加の罰金を課すことを勧告とができる。憲章懲罰委員会で決定された懲戒の再審は、WTの紛争解決及び懲戒規定第6条の規定により請求することができる。

22) 規則に明記されていないその他の事項

規則に定められていない事項が発生した場合には、競技に関連のない事項については、当該試合の審判員の総意により判断する。

または、技術事項、協議事項等、選手権全体の特定の競技に関係しない事項は技術代表者が決定するものとする。

No.	項目	内容	旧ルール	新ルール	コメント
1	得点	パンチ	1点	1点	
		胴へのキック	2点	2点	
		頭部へのキック	3点	3点	
		胴への回転蹴り	3点	4点	テクニカルポイント：1点→2点へ変更。
		頭部への回転蹴り	4点	5点	
2	禁止行為	境界線越える行為	両足が出た場合、カムチョン	片足でも出た場合、カムチョン	空中で片足が出るが、最終、競技エリア内に着地すれば対象外
		クリンチ時のモンキーキック	-	禁止行為に追加	クリンチ（手で相手を押しても）際、側面でPSSを蹴ることは禁止。
		10秒ルール	5秒→ファイト→10秒	5秒→ファイト→5秒	積極的な攻撃の奨励
		禁止行為後の得点	カリヨが入るまで得点が有効	禁止行為に続くいかなる得点も無効	主審が得点無効を忘れた場合、IVRの対象となる。
3	GP	名称変更	ゴールデンポイントラウンド	ゴールデンラウンド	
		得点	1点以上または相手カムチョン2回	2点以上が必要	パンチのみ（1点）のみでは勝利にならない。 ①蹴り ②2回のパンチ ③1回のパンチ+1回のカムチョン ④2回のカムチョン
		GPで決着しない場合	①PSSへのヒット数 ②3ラウンドでのラウンド勝利数 ③4ラウンドにおけるカムチョンの少なさ ④優勢記録による勝利	①パンチによる1点 ②PSSへのヒット数 ③3ラウンドでのラウンド勝利数 ④4ラウンドにおけるカムチョンの少なさ ⑤優勢記録による勝利	
4	計量	運用	一般計量	一般計量+無作為計量	計量後、大幅な増量を抑制。（安全面を重要視）
		無作為計量	-	競技開始2時間前に競技会場で実施。コンピュータによる無作為で対象者を選定	G3以上の国際大会では、階級の33%の選手が対象。 階級重量+5%を許容範囲として実施。 例）-58kgの場合：58kg×0.5%=2.9kg 計量回数は、1回のみ実施。（失敗の場合「失格」） →再計量はなし。
		運用	アンダーパンツのみ（女子はブラジャー着用）	アンダーシャツ（100g）着用が必要。	ジュニア・カデット（男子・女子）が対象。
5	IVR	要求事項	-	禁止行為に対しカムチョンを出した後、得点を無効にすることを忘れた場合	
			-	審判による拳で攻撃する競技者の誤認	
6	その他	ケシの対応	ケガの度合いを見てケシを宣言。	ドクターを呼んでからケシを宣言する。	
		ノックダウンの対応	カウントをしている間、時計は進む。	カウント時は、時計は停止される。	

6)階級

■通常階級

男子		女子	
-54kg	54.0kg以下	-46kg	46.0kg以下
-58kg	54.1kg~58.0kg	-49kg	46.1kg~49.0kg
-63kg	58.1kg~63.0kg	-53kg	49.1kg~53.0kg
-68kg	63.1kg~68.0kg	-57kg	53.1kg~57.0kg
-74kg	68.1kg~74.0kg	-62kg	57.1kg~62.0kg
-80kg	74.1kg~80.0kg	-67kg	62.1kg~67.0kg
-87kg	80.1kg~87.0kg	-73kg	67.1kg~73.0kg
+87kg	87.1kg以上	+73kg	73.1kg以上

■オリンピック階級

男子		女子	
-58kg	58.0kg以下	-49kg	49.0kg以下
-68kg	58.1kg~68.0kg	-57kg	49.1kg~57.0kg
-80kg	68.1kg~80.0kg	-67kg	57.1kg~67.0kg
+80kg	80.1kg以上	+67kg	67.1kg以上

■世界カデット階級

男子		女子	
-33kg	33.0kg以下	-29kg	29.0kg以下
-37kg	33.1kg~37.0kg	-33kg	29.1kg~33.0kg
-41kg	37.1kg~41.0kg	-37kg	33.1kg~37.0kg
-45kg	41.1kg~45.0kg	-41kg	37.1kg~41.0kg
-49kg	45.1kg~49.0kg	-44kg	41.1kg~44.0kg
-53kg	49.1kg~53.0kg	-47kg	44.1kg~47.0kg
-57kg	53.1kg~57.0kg	-51kg	47.1kg~51.0kg
-61kg	57.1kg~61.0kg	-55kg	51.1kg~55.0kg
-65kg	61.1kg~65.0kg	-59kg	55.1kg~59.0kg
+65kg	65.1kg以上	+59kg	59.1kg以上

■世界ジュニア階級

男子		女子	
-45kg	45.0kg以下	-42kg	42.0kg以下
-48kg	45.1kg~48.0kg	-44kg	42.1kg~44.0kg
-51kg	48.1kg~51.0kg	-46kg	44.1kg~46.0kg
-55kg	51.1kg~55.0kg	-49kg	46.1kg~49.0kg
-59kg	55.1kg~59.0kg	-52kg	49.1kg~52.0kg
-63kg	59.1kg~63.0kg	-55kg	52.1kg~55.0kg
-68kg	63.1kg~68.0kg	-59kg	55.1kg~59.0kg
-73kg	73.1kg~78.0kg	-63kg	59.1kg~63.0kg
-78kg	73.1kg~78.0kg	-68kg	63.1kg~68.0kg
+78kg	78.1kg以上	+68kg	68.1kg以上

■ユースオリンピック階級

男子		女子	
-48kg	48.0kg以下	-44kg	44.0kg以下
-55kg	48.1kg~55.0kg	-49kg	44.1kg~49.0kg
-63kg	55.1kg~63.0kg	-55kg	49.1kg~55.0kg
-73kg	63.1kg~73.0kg	-63kg	55.1kg~63.0kg
+73kg	73.1kg以上	+63kg	63.1kg以上

-kg以下の意味は、適用単位は小数点第1位までを基準とする。